

新たに翻訳された LEED のマテリアルが日本で利用可能に

今後拡大する日本のグリーンビル市場の育成と構築に寄与

本日、一般社団法人グリーンビルディングジャパン（GBJ）と米国グリーンビルディング協会（U. S. Green Building Council / USGBC）は、LEED 認証の最新バージョンである LEED v4 の適用を加速し、日本における将来の環境配慮建築のキャパシティを引き上げるため、新たに翻訳されたマテリアルをご紹介します。

GBJ と USGBC は、従来から継続している連携の成果の一端として、日本語版の LEED v4 グリーン・アソシエイト受験者ハンドブック及び LEED グリーン・アソシエイト試験をリリースしました。この新しいマテリアルは、日本の専門家が環境配慮建築の基本原則についてより深い知識を身に付け、著しい成長を続ける日本のグリーンエコノミーにおいて将来優位な業務に携わる労働力の育成を促すことを可能とするものです。

「市場のキャパシティを高めるためには、環境に対する配慮と次世代のリーダーの育成は特に重要であり、人工環境においてグローバルレベルで市場の変革を引き起こすという我々のミッションの達成に欠かせない。」とは、USGBC の最高執行責任者、兼グリーン・ビジネス・サーティフィケーション・インク（Green Business Certification Inc. / GBCI）代表取締役社長であるマヘシュ ラマヌジャムの言葉です。「USGBC は、LEED があらゆる地域や国にも適用可能なグローバルなグリーンビルディング評価システムであることを世界中のマーケットに対してコミットしている。」

LEED グリーン・アソシエイトの資格を取得した専門家は、最新のグリーンビルディングの基本原則に対する知識を有していることが実証され、専門家としての将来が約束されます。

「本日、GBJ と USGBC はともにまた一つのマイルストーンを打ち立てました。」と、GBJ の共同代表理事である浦島茂は述べています。「GBJ コンテンツ・ワーキング・グループのボランティア作業により、私たちは「言葉」という最も大きな障害の最初の部分を低減することに成功し、市場の変革に向かって多くの有望な参加者と共に成長する準備ができました。」

継続した連携の結果、先般 GBJ と USGBC は一定の要件を満たしている日本のプロジェクトにおいて、環境中のタバコ煙（ETS）のコントロールのため新しい代替方法（Alternative Compliance Path: ACP）である屋内喫煙室のオプションを、LEED のプロジェクトでも行使可能とするパイロットテストを発表しました。日本の喫煙規制は、建物の内部と外部を両方規制するといという他に類を見ないものです。屋外では一定の路上や公共の場での喫煙を禁止している一方で、建物内部でも、特別に設計された屋内喫煙室以外での喫煙を制限しています。新しい ACP は、このような状況下にある日本の LEED プロジェクトに道を拓くものです。